



三 松 禅 寺
平成 30 年 1 月
第 69 号

檀家の皆様
ご寄稿を
お願いします

五 見

三松寺住職 皆川大真

平成三十年戊戌・仏紀二千五百八十四年 新年おめでとございます。徹宵坐禅引き続き、午前三時より元旦御祈禱行じ、皆様の御健勝・御多幸を祈念致しております。本年も御道交の程、宜しくお願い申し上げます。

仏教に、人間が陥る五つの見解「五見」の教えがあります。この五つを離脱しなければ真実の生活は得られぬ事を説いています。一、「身見」我が肉体が実在すると思ひ込むこと。この世に生まれた途端、死と同居している事・無常を忘れ、何百年も生きるかの如く勝手に思い振舞う生活・これを「凡夫」という。人と争ってどうでも勝たねば

ならぬと思うのも、身見のなせるわざ、もし勝つてみたところで、何年、何十年間の勝利ぞ？食っても食っても、もつと美味しいものを食べたい餓鬼、儲けても儲けてもなお足らぬ金の亡者、いくら勉強しても心の満足が得られぬ知識の餓鬼、常に携帯・パソコンゲームに興じてる人、経験獲得した快楽・金銭・権力・知識をいつまでもいつまでも身につけたい、墓場の彼方まで運んでゆけるという思いで凡夫生活を振舞う、実に哀れな擬態生活に陥る。

二、「辺（偏）見」一方だけ見て他方を見ない。右が大事・左が大事と言ひ張る様な偏見、過去の事例ばかりに拘ったり、未だ来ない

未来に憧れて今を虚しく思い過ごす。三、「邪見」原因と結果（因果）を無視する見解。数そのものには優劣はないが、貨幣の単位になると、二万円＋三万円が五万円になるより五より六にしたり七になればと言ひ出す貨幣單位への邪見。平和や平等は世界全体を示す言葉ですが、おひとり様の思い優先、自分の都合が悪いことを「自分だけ不平等だ、不幸だ」と言ひ、環境のせいにしだす【親兄弟・地域・学校・社会・政治体制・宗教・神や悪魔・善悪：等】

西洋でもこの三つの克服には科学―自然科学・社会科学・文化科学―によって克服すべきものとされてい

る。ところが次の二つの「見」は大勢を巻き込む。四、「見取見」―これまでの三見だけでなく我見、先入見、管見、妄見、その他の「見」の何れか一つに執着してそれを最勝だと思ひ、一つの見解を堅く取り込み至上最高であるとす。肯と不肯、イエスとノーそれしか他には無い主義・資本主義・血統主義・民族主義・法律主義・宗教主義・神秘主義・文化主義・王権主義・社会主義・共産主義・競争主義・自由主義・民主主義・愛国主義、様々なイデオロギー等、これらの一番優れた見解が二つ並ぶと、必ず争いが生ずる。最勝と最勝の対立であるから、一番激しいものとなる。その結果、排他性から攻撃性が出る。いずれも破壊のエネルギー源となる。この化け物を看破し、離脱せしめるのが禅の鍛錬である。

五、「戒禁守見」善行を積みめば必ず天に生まれる（転生）と堅く思ひ、自分の行ない（礼節・道徳を守る）

はきつと天に通じるものと思ひ込む。衣食住が豊かで何の苦悩もなく、世間から名声・称賛が得られる。これが憤懣となれば「おれがこれだけのことをしているのに。」この「の」に「けど」だけ」は爆発性を持つている。見取見と結びついて巨大な破壊エネルギーにも化ける。唐の時代、^{ズイガン}端嚴和尚は坐禅中に次の様に自問自答した。「主人公」「諾（ハイ）」「醒醒（目を醒ませ）」「諾」「異日他時、人の瞞を受くる事なかれ。」「おおいお前、これから先、何時如何

なる時も、他人（五見）にだまされるなよ！！ハイハイ。」濁った世の中、様々な世間の中で嘆かずに、自らに問うべし「主人公！やるべきことはやりなさい。」と。

道元禅師の教えに「龍門」がある。三段の滝（貪り・怒り・愚かさ）の荒波を乗り越えた鯉が狭き門をくぐって龍となる。「登竜門」とはしっかりと己の志を見据え、困難に向かつて失敗を恐れずに挑戦し、堂々と生きる勇氣のことですね。





祝

隆真立職

りゆうしんりつしよく

(首座法戦式)

しゆそ

平成廿九年十一月廿五〜廿六日

大阪洞雲寺晋山结制



結(けっせい)制

お釈迦さまが定められた制
度にしたがい、大勢の修行僧
が一カ所に集まって修行する
ことを、結制といっています。



インドでは、四月から七月
にかけて雨季となり、雨が降
り続きます。それにより姿を
見せる小さな生き物を踏み潰
してしまわないように、お釈
迦さまはこの期間、寺院にこ
もって修行することを定めま
した。

***結制(けっせい)**
建物の中にもこのことか
ら、安居ともいい、特に
期間が九十日に及ぶため、
九旬安居といっています。各
地でその季節にわたって
た安居が行われています
が、現在日本では夏と冬
の二回行います。

請首座法(しょうしゆほう)

(首座入寺式)

結制を行う場合には、集まった修行
僧の先頭に立つ「首座和尚」が必ず置
かれます。そのお寺に住む若い僧侶が
つとめる場合や、他の寺院から呼ぶ場
合などがあります。そして、一寺の住
職として結制安居の修行を終えた新命
住職は、大和尚と呼ばれるようになる
のです。



首座法座(しゆざほうざ)

(首座*法戦式)

首座が任職に代わり、禅の修行やさ
とりについての問答を交わす儀式です。
これはお釈迦さまが靈鷲山で弟子の摩
訶迦葉に席をゆずり説法させた故事に
なりました。

***法戦式(ほっせんしき)**
法戦式は、問答を交わす
ことから法の戦い、すな
わち法戦式といわれます。

挙心経(きよこころ)

参列の僧侶が、般若心経を誦経します。

参列の僧侶が、般若心経を誦経します。

***本則(ほんそく)**
法戦式での問答の課題

拈竹篋(ねんしやくけつ)

首座が任職から*竹篋を授かり、さあ、
だれでも何でも質問してこい、という
意味の言葉を発して、問答がはじまり
ます。

***弁事(べんじ)**
法戦式で首座に仕える役
職

法問(ほうもん)

首座と修行僧との間で問答が戦わされ
ます。

謝語(しゃご)

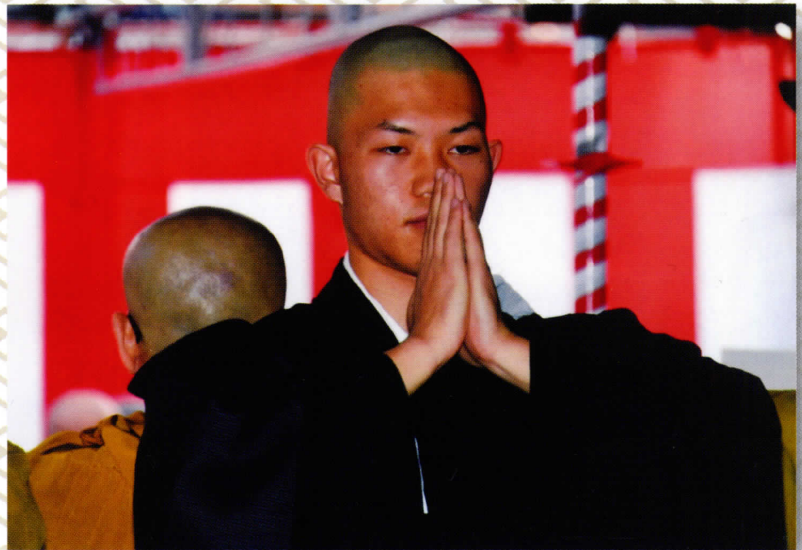
問答が終わると、首座はお礼をいい、
竹篋を任職に戻し、お拝をしてみわ
ります。

祝語(しゆくご)

役につかれた僧侶からお祝いと、励ま
しの言葉をいただきます。



竹篋



上座から座元になりました!

(武士でいうと元服・世間でいうと成人式)

大役を立派に務める事が出来ました。





ブルネイサッカーユース
U-19 代表選手の参禅



2017.08.29



中秋の送月の宴



参禅の様子



秋彼岸「健康出前講座」

正しい食の話



恒例の
歳末助け合い募金托鉢
(近鉄九条駅)

2017.12.01